

潮騒通信「どっこい生きてます！」

「私を見捨てない。出直してまた戻って来いよ」

過日、ある司法関係の読者から「潮騒通信をよく読んでいます。とりわけ受刑者からの手紙は獄中にある人たちの本音だけに、とても参考になっています」という有難い感想をいただきました。あのコーナーは私自身が過去7回通算20年にわたり獄につながれ、外部とのコミュニケーションに飢えていた経験が下地です。行動が厳しく制限された高い塀の中で、一番の望みは自由への渴望だと思われるでしょうが、私の体験からすると少し事情が異なります。確かに刑務所は一般社会からすれば理不尽にも見えるほど厳しい規則で成り立っています。受刑者は番号で呼ばれ、ちょっとしたことで懲罰を科され、独房入りです。でも、下手な自尊心さえ棄てられるなら意外と気楽なものです。体験的に言えば、刑務所の暮らしは規則に従っている限り、自分の頭で考えることをしないで済みます。特に依存症者は根本に依存癖があるだけに、慣れてしまうと余計に規則への順応が進み、それほど苦にならなくなるから不思議です。娑婆に出て八方塞がりの、思うようにならない人生に振り回されるよりも気楽な受刑生活かもしれません。

でも出所して社会に出る段階になると、今度は人として使い物にならなくなります。過剰な環境への同化や規則への順応によってすっかり「指示待ち人間」となり、うまく社会に適應できないのです。運よくダルクにつながっても自分の判断で行動することができず、何をしてもスタッフにお伺いを立てる場面をよく見かけます。子供ならともかく、大の大人にいちいち指示して行動を促すのはとても疲れます。このため依存症の回復にはこうした人間性の「壊れた」部分を、時間を掛けて修復する作業が必要なのです。その上で必要な基本的なコミュニケーション能力や感情をコントロールする落ち着きを身に付けさせ、本来の自分を取り戻して自己肯定感を育てます。与えられた役割を担うことで社会常識を身に付け、人間関係の適度な距離感を体得していきます。

やっかいなのは「力（暴力）こそ正義」と信じて生きてきた任侠道の仲間たちです。私もその一人ですが、入寮しても回復の第一歩となる、自分の無力を認めることがなかなかできません。ましてや施設を腰掛けと考える「仮釈狙い」の人たちは、規則らしい規則のない施設環境に面喰らい、自分の居場所を見つけられずに孤立し暴走しがちです。これが暴力的な体質と相まって施設破壊につながるまでエスカレートすると、もはや放置できません。退寮措置を講じざるを得ないケースも出てきます。でも、私は心の中でつぶやきます。「今回はうまくいかなかったけど、自分を信じてくれる仲間がいることは立ち直りのきっかけになる。この世にあなたの代わりなどいない。だから、みんなが嫌っても私を見捨てない。また一からやり直して潮騒に戻って来いよ」と。綺麗ごとすぎるでしょうか。先の国会で覚せい剤事犯者らへの刑の一部執行猶予の関連法案が成立し、3年後には施行されます。今後、潮騒にも刑務所から繋がる仲間たちがますます増えることでしょう。潮騒JTCの度量と力量が問われます。（施設長 栗原 豊）

SJTC

SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2013年

7月号 一部100円

Contents

- P1 「また戻って来いよ！」
- P2 夏季キャンプを実施
- P3 キャンプ・フォト特集
- P4 第5回就労支援講座
- P5 各イベント参加の感想
- P6 祝クリーンバースデー
- P7 ファイザー推進委開く
- P8 近藤氏インタビュー-15
- P9 各地受刑者からの便り
- P10 俳壇・入寮者の投句
- P11 しおさい俳壇・秀逸句
- P12 行事予定&献金献品



恒例の潮騒夏季キャンプで「切り絵」に挑戦した入寮者＝関連記事はP2、3

潮騒夏季キャンプで入寮者が交流

…ふだんとは異なる空間で濃密な分かち合い!…

今年で3年目の開催となった潮騒 JTC 夏季キャンプ。6月25・26日の2日間にわたり、土浦市永井の茨城県立中央青年の家で取り組みました。仲間たちは携帯電話の電波も入りづらい里山の空間で、施設の日常とは異なる集団生活を体験。子供時代にタイムスリップしたかのようにキャンプファイヤーなどの企画を楽しみました。

●1日目～天候が不安定だったものの、何とか晴れました。午前11時頃に潮騒 JTC の一行約80人が到着。オリエンテーション、昼食を済ませると、お待ちかねの自由時間。公園内のオリエンテーリングコースで森林散策をしたり、広場でのゲートボール、室内で将棋をするなど思い思いの時間を過ごしました。夕食と入浴を済ませると、夜は初日のメインイベントとなるキャンプファイヤーの時間で、花火などで大いに盛り上がりました。中にはふんどし姿のメンバーもいましたが、そこはご愛敬。ラストは「平安の祈り」で締めくくりました。

●2日目～初日とは打って違って雨模様。室内で切り絵に取り組みました。用意された切り絵は「ネコ」と「ダルマ」の2種類で、細かい模様がなくて結構難しかったようです。それでも切り絵を完成させて、2枚目や3枚目に取り組みむメンバーもいました。お昼は屋根付きの炊事場でバーベキュー。各班に分かれて、それぞれ火起こしから調理までを体験。手なれたメンバーも多かったものの、薪での調理のため火力の調整が難しかったようでした。仲間たちからは「やはり野外でのバーベキューは格別」「今回は焼きそばがうまかった」「雨にたたられなければ申し分ないが、雨天のバーベキューも晴れた日とは別な趣がある」などの感想が聞かれました。



7月誕生日の仲間たち



左からチョーさんとツカさん、他のメンバーは都合がつかせませんでした。

(右上は6月が誕生日だったサカさん＝「我が回復記」連載中)

＝しおさいミニ情報＝



ホームレスの自立を支援する雑誌「ビッグイシュー日本版」の取材スタッフが7月2日、潮騒 JTC のデイケア施設や農場等を訪れ、現在取り組んでいるファイザープロジェクトについて取材しました。

＝森林散策、切り絵、キャンプファイヤー、野外BBQ…＝



いばらき就職支援センターの指導員が講話

★潮騒ファイザーP・第5回就労実践講座で★

潮騒 JTC の仲間たちが依存症を克服して社会復帰するため、就職に必要な知識やスキルを学ぶ潮騒ファイザープロジェクトの講演会「第5回就労支援実践講座」が7月5日、鹿嶋市宮中のまちづくりセンターで開催されました。これまではAAやダルク関係者、地元の農業者らが講師を務めました。今回はより実践的な内容をと、県いばらき就職支援センター鹿行地区センターに協力を求めました。

この日は冒頭で、栗原豊施設長が「より身近な県の出先機関の方から直接、就職支援の指導を受けられるのはとても有難い。ダルクや潮騒 JTC の大きな課題は就労問題なので、これを縁に息の長い付き合いを」と挨拶。

続いて、いばらき就職支援センター・鹿行地区センター長の中山芳樹氏が同センターの活動などを説明。これを受け、キャリアカウンセラーの担当者が講話に立ちました。講師を務めた担当者には、より具体的に面接の受け方や就職の心構え、ビジネス



マナーなど、いわゆる“一般の社会人”向けの再就職講座とほぼ同じ内容の講義をしていただきました。

就職の心構えについて担当者は、働くことの意義について▽自立への道▽社会への道▽目標への道—を挙げて、働くことの意義を説きました。その上で「面接の時には第一印象が大事」と述べ、鏡の前で「ハッピー」と言って表情を柔らかくするなどのアドバイスをいただきました。

また、用意したテキストを基に「職務の棚卸し作業」として、参加者に今まで経験してきた仕事内容を書かせたり、仕事での成功体験などの経験を書かせたりもしました。

後半には面接の受け方のDVDを流し、お辞儀の角度や面接先での入室といった、面接時のマナーについての説明がありました。その中で「メラビアン法則」として▽見た目55%▽話し方38%▽話す内容7%—と、面接では“見た目”が重要視されることを力説していただきました。

【解説】 今回、県の協力で質の高い就職講座が実現しましたが、テキストを含め依存症者にはハードルが高すぎる印象を持ちました。潮騒につながってくる仲間たちは「会社でキャリアを積むどころか、社会からつまはじきにされた」「単純労働しかしたことがなく、ドヤ街で飲んだくれていた」「仕事にも家庭にも恵まれず、来るべくして潮騒に来た」「“ダメ人間”のレッテルを張られっぱなしで、薬物やアルコールしか救いが無かった」「施設と刑務所を行ったり来たり的人生」などの厳しい境遇を生きてきた人たちです。このため就職支援以前の問題を解決しないと、なかなか先に踏み出せません。まずは「失った自己肯定感を取り戻すこと」「物事をやり遂げた達成感から自分に自信をつけること」「過去の自分と決別すること」が求められます。現在進行中の潮騒ファイザープロジェクトが、まさに問題解決の突破口となりうるもので、農業体験や仕事体験を通して自分に自信をつけ、働くことの大切さを学び、“ダメ人間”のレッテルを返上していくことが、人生再出発の第一歩となります。そうした体験を積んでからの「実践的な就職講座」なら有効だと思いました。やはり依存症者にとっての就労問題は、まず「12ステップ」の理解と実践、当事者本人の回復の度合いを踏まえた上での具体的な支援の形が求められると実感させられました。かなりの手間が掛ると思いますが、農作物を育てるように根気強く取り組むことが求められます。この日の講話は施設側の不手際で時間をロスしてしまい、講師の方にご迷惑をお掛けしました。また主要スタッフが自助グループのコンベンションに参加したこともあり、就労問題をより身近に感じている参加者が少なく、今一つ受講姿勢に意欲が感じられませんでした。貴重な反省点となりました。(サッキー)

自分の「弱さ」を認めることを学ぶ ～北海道ダルクフォーラムに参加して～

「NPO法人・北海道ダルク第9回フォーラム」が6月22日、札幌市北区の北海道クリスチャンセンターで開かれ、潮騒 JTC から栗原施設長を含め5人のメンバーが参加しました。フォーラムは「Just for Today」をテーマに、仲間たちの体験談と理事の講話、ゲストの近藤恒夫さん（日本ダルク代表）の講演などで構成され、示唆に富むプログラム内容でした。

※※※

個人的な話で恐縮ですが、北海道ダルクには特別な想いがあります。昨年、潮騒ファイザープロジェクトの関連で浦河町にある「べてるの家」を視察研修で訪れた際に、レンタカーを借りる手配や宿泊をさせてもらったからです。こうした厚意に感謝するのはもちろん、今は亡き特別な仲間と2人で過ごした日々が思い出されるからでもあります。今回のフォーラムでは以前、潮騒に居た仲間にも再会できました。彼は潮騒では「ヤス」と名乗っていましたが、今は「銀次郎」とアノニマス名を変え、新たな気持ちで回復に取り組んでいる姿に励まされました。美味しいラーメン屋を教えてもらい、そのまま一緒に自助グループミーティングにも参加しま



した。新しい仲間たちとの分かち合いができて、とても良かったです。

フォーラムには全国から多くの仲間が集まりました。いよいよ開幕という時、北海道ダルク施設長のトオルさんが病気のために欠席と告知され、その分スタッフのメンバーが一生懸命にそれぞれ

の役割を果たしている光景に頼もしさを覚えました。仲間たちの話や関係者の話は北海道ダルク、つまりトオルさんの個性や色合いが反映されているように見え、とりわけ自分たちの「弱さ」と謙虚に向かい合っていることが伝わってきました。ともすると自分は日々の役割や出来事に振り回され、潮騒ファイザープロジェクトの農作業などで

日々忙しく過ごしており、つい自分を見失いがちです。それだけに平安の祈りにある「自分に変えられないものを受け入れる落ち着きを」の言葉を思い出しました。今回、忘れてしまいがちな「弱さ」を認めること、「ありのままの自分」を受け入れることを教えられたフォーラムでした。 (ヒトシ)



＝京都・自助グループコンベンションに参加して＝

7月5日から7日まで、京都で開かれた自助グループの大規模コンベンションに初めて行かせていただきました。私にとって京都は初めての地で、いろいろな体験をさせていただきました。6日には親というテーマに興味を持ち子を持つ親として私と同様な体験をしている仲間の話聞いて、この病は一生治らないと痛感させられました。



気を頂き本当に勉強させてもらい、参加して本当に良かったと思いました。有名な清水寺に行ったのも初めてで、浴衣姿の女性が自分の娘とダブって見えました。それに京都の暑さは沖縄の暑さと違って湿度が高いのにびっくりしました。もう一つ印象的だったのは舞妓さんがとてもきれいだったこと。八つ橋のおいしさには、心も体も安らぎを感じました。これから先もクリーンを保ち、機会がありましたら家族と行きたいです。私にとって良き思い出になりました。ありがとうございました。 (さゆり)

潮騒メンバー6人のクリーンバースデー祝う

薬物・アルコールなどが止まって新しい人生を踏み出したことを祝う自助グループの“クリーンバースデー”イベントが7月12日夜、鹿嶋市の大野まちづくりセンターで開かれました。クリーンバースデーを迎えたのは、潮騒 JTC のユタカさん(クリーン10年)、ルミさん(8年)、トムさん(3年)、ヒコさん(3年)、長吉さん(3年)、タカさん(1年)の6人です。地元メンバーに加え千葉県や横浜市などからも集まった多くの仲間たちから祝福を受け、6人は今後も薬物やアルコールに頼らない新しい人生をさらに歩む決意を述べ、クリーンの大切さを実感していました。



※写真撮影は予め被写体メンバーの許可を得ています。右はクリーンバースデーを祝う記念のケーキに入刀するユタカさんとルミさん

曲折を経てつながった横浜ダルクでの生活は気持ち前向きであったのと、「もう後がないという」崖っぷちからのスタートだったためか、意外と自分の病気(勘繰り)の問題も少なくなり、スムーズにダルク生活に入ることができました。既に2つのダルク経験がある私です。ダルクでの自分の在り方が、ちょっぴり分かりかけてきた事もあり、当時は割といい感じの入寮生活が出来た感じでした。

しかし、自分の根本姿勢が改まらずにいたことから、「サカは常に薬物をやっているのでは？」と誤解される場面が多く、絶えず施設側には反感を持っていました。そのため施設への反抗心も根強く、施設長やスタッフの皆様には随分とご迷惑をお掛けしました(今だからこそ、そのことが理解できる私ですが…)。とにかく横浜ダルクでの生活は、施設側に対する強引な要求と理不尽な請求の繰り返しでした。目の前の現実が常に自分の思い通りになるものと思ひ込む、ヤク中特有の身勝手さを、なかなか払しょくできませんでした。

でもそれは後に、潮騒 JTC でスタッフ研修をやらせて頂いたからこそ理解できた訳で、いかに自分は我がままで自己主張の強い人間であったかと、今さらながら深く反省させられます。横浜ダルクへのおわびと、

それを受け入れて下さったことに感謝する次第です。逆の立場(施設スタッフ)になるという事はこんなにも大変で苦しく、でも成長する事につながるとは思ってもいませんでした。

今も自己中心的な部分が自分の体内に巣くっているだけに、ありのままの自分や周囲を素直に受け入れる事の難しさ、我がままの繰り返しが無自覚に出てくる場面では、横浜ダルクスタッフの気持ちが思い出され、時おり恐ろしさや恥ずかしさ、後悔の念で消え入りたい衝動に駆られます。これは、私の移った5つのダルク施設長やスタッフに対しても感じる事でもあります。恥の上塗りになりますが、何とかクリーンを続けられている間も、自分に対する施設側の薬物疑惑は消せませんでしたので、猜疑心の強さも自分の大きな課題でした。

そうした中で、昨年開かれた仙台・自助グループコンベンションに参加した際、脱法ハーブの使用で救急車騒ぎを起こしてしまいました。この一件で、またしても3カ月でクリーン期間がつゆと消え、ホテルの方にまで大変な迷惑をお掛けし、お世話になった横浜ダルクを裏切ってしまう結果となり、退寮措置となりました。そして茨城県結城市の茨城ダルクへと施設移動したのでした。(次号に続く)

我が回復記

「やっつこ私も生きますわ」
依存症のサカです NO5

* 今年前半の農業プロジェクトなど報告 *

第1回ファイザー推進委～各委員から幅広い意見

◆農作物直売活動も体験し成果得る

現在2年目の取り組みが折り返し地点を過ぎ、秋に向けてピークを迎えつつある潮騒ファイザープロジェクトについて話し合う「2013年第1回潮騒ファイザープロジェクト推進委員会」の会議が7月12日、潮騒デイケア施設で開かれました。

※ ※ ※

冒頭、委員長の栗原豊施設長がメインの農業プロジェクトについて「今年は夏野菜を中心に多品種な農作物にも挑戦しており、既に市内のファミリーレストランの一角を借りて、青



空野菜市として一部ながら農作物直売活動も体験しました。また、昨年より大幅に作付面積を拡大したコメづくりも順調で、このままいけば前年並みの豊作が見込まれます。まだまだ手探り状態の潮騒農業プロジェクトですが、施設内において日がな一日受け身で過ごしていた時に比べ、プロジェクト参加者には明らかに変化が見て取れます」と手ごたえを得ている様子を語りました。

◆園児との農作業交流が回復に副次的な効果

会議では事務局側から、昨年行われた開墾作業や農作業についての取り組みと「農業分野に就労の可能性を見いだしている。自然との触れ合いが依存症者の生活リズムや回復のペースに合致する」との成果が報告されました。その上で2年目に入っの重点事項として、▽青パパイアの栽培▽地域の直売所での販売▽水田耕作の拡大▽生活保護から脱却のために農業プロジェクト参加者への報酬による動機づけ▽就労支援講座の開催—が示され、達成すべきビジョンとして①依存症者の職業訓練や就労支援の体系化されたプログラム開発②プログラム実践を下支えする地域ネットワークの形成し、受け皿となる雇用環境の整備③依

存症者を生活保護受給者から納税者へと育て上げ、依存症問題に対する偏見の除去—を掲げました。

また、潮騒農業を担う「自然隊」で活動している農業プロジェクトリーダーのヒトシさんが、今年前半の作業風景などの写真を交えながら、これまでに取り組

んだ農作業について報告。自然と触れ合う農業が依存症の回復に大いに貢献できると実感したことや試行的ながらも販売活動に漕ぎつけたこと、さらに地元の保育園児を招いての農作業交流が入寮者の心を癒していることなど人間性の回復に副次

的な効果をもたらしていることを力説しました。

◆県いばらき就職支援センターも新たに参加

意見交換では各委員から「入所者の話を聞き、就業能力のある人については、できるだけスキルアップしていくように支援したい」「無理に社会に出て、その狭間でより病気（依存症を）を悪くするのどうか」「一般社会では9時～3時（の就労）は難しい。段階的に社会に出るのがいい。ビニールハウスからいきなり外の風に当てず、少しずつ世間の風に馴らしていく必要がある」「『生活保護か自立か』の二者択一ではなく、『半就労・半福祉』に関心を持っている」「クスリ漬けの人が社会と触れ合って、人間らしさを取り戻すだけでもいいのではないか」「回復して再犯を起こさないのが大事」など多様な意見が出されました。

同推進委員会は昨年3回開きましたが、12月に続いて翌1月に開くことは各委員の負担が大きいため、今年は2回開催としました。次回（最終）は12月初旬に開き、2年目の取り組みの成果をまとめ、報告する予定です。なお、今回から県いばらき就職支援センターの参加を得ることができ、各級行政機関との連携により一層、厚みを加えることができました。（勝）

近藤恒夫氏インタビュー「薬物依存と回復の権利」VOL15

言ってみれば薬物汚染は経済問題だよ。国際的な麻薬密売組織なら世界に流通させるなんて訳無い

—近藤さんは早くから薬物乱用防止運動の限界を指摘され、本音で問題提起してきましたね。

近藤 「ダメ。ゼッタイ。」の乱用防止運動が一定の効果を上げている面は否定しない。ただ僕に言わせれば、その程度の対応で薬物問題がなくなるなんて妄想だな。四方を海に囲まれた島国だから、日本にはいくらでも違法薬物は持ち込まれる。もっと言えば、世界に極貧国がある限り「食う」ために違法薬物は生産される。言ってみれば薬物汚染は経済問題だよ。国際的な麻薬密売組織なら世界に流通させるなんて訳無い。警察とのイタチごっこがなくなるのは、世界に貧困な国がなくなる時だ。それも妄想だろうけど…。

国家の防衛もいいけど、どうせ大金（国費）を投入するんなら、「ダメ」と分かってもクスリを使ってしまう人達に目を向ける方が理にかなっていないか。なぜなら、その人たちが刑務所に入れば密売人になって汚染を拡大する側に回る訳だから。再犯者を食い止める方策に厚みを持たせる方が得策だろうと僕は思うんだ。単純自己使用の段階で、きちんとした依存症へのケアがなされればいいんだよ。

まあ最近では外圧が厳しいし、訳の分からない犯罪が起きているけど、諸外国に比べれば日本はまだまだ自由で安全な国だと思うよ。島国で同じ民族だから、たいがい隣近所とは気心が知れている。戦争には負けただけ植民地や属国にならずに、戦後は平和に過ぎてきた。そうして経済的には豊かになった。だからダルクみたいなアウトローの人たちの集りを認めている訳だ。その限りにおいて、僕らは国に感謝すべきだよ。

—ただ、昔から日本人の横並び意識は変わらないですよ。出る杭は打たれるし、本気で強い個性を發揮しようとするればうとまれ、ひどい時は潰される。

近藤 確かに、いじめ問題なんかは典型だな。みんな口ではマイノリティーの人権とか弱者救済とか言うけど、ダルクのようなアウトロー体質の個性派集団は、本音では嫌われる。この25年だいたい地域に溶け込んできたように見えるけど、いざ新しいダルクをつくらうとすれば筵旗（むしろばた）の反対運動が起きる。僕の一方的な被害者意識じゃないよ。都市部はと

にかく田舎に行けばそうなんだ。

結局、この国は一億総共依存国家で、みんなもたれあう社会構造で成り立っている。国の仕組みからして自立しにくいんだ、日本は。でも、僕らの病気は最終目標が自立だよ。依存の反対、自分の足で立って地域社会で生きていくこと。自分たちのことは自分たちの考えでやろうぜ、っていう。そんな当たり前のことを一生かけてやっていく訳だから、何度か回り道もするし、失敗も繰り返す。ダルクはそれを、人間の弱さとしてお互い認め合いながら、成長していく居場所に過ぎない。ここに社会のルールや常識をそのまま持ち込んだら、ダルクのような居場所は成立しないんだよ。

—個人的にはそこのところが好きなんです。そこをもう少し説明してください。

近藤 うまく説明できるか難しいんだが、そういう横並びの国民意識や世間の仕組みから、ある意味では距離をおいてやっているから、ヤク中がダルクで救われるんだな。依存症の世界はそれこそグレーゾーンだから、曖昧な度量がなくてははいけない。ここを厳しく行政の発想で線引きしちゃうと、おかしな方向にいったらうよ。この曖昧さはダルクの生命だからね。

僕は線引きがなかったからダルクは良かったと思ってる。線引きがある仕組みの中で、ダルクなんかやったら、みんな刑務所に戻っていくよ。ダルクは線引きのない曖昧なところだったから、かろうじて救われてきた。これは大事な原則なんだ。例えばダルク内で薬物使用が発覚しても、ダルクは治療・回復施設だから警察に通報しないとかの判断がなされてきた。

本来は通報すべきところなんだろうけど、ダルクにいるということは、こいつはクスリをやめたいからいるんだから、という微妙なさじ加減の判断ね。そういう施設の懐の広さや度量というものを、責任者が持っていないと行き詰っちゃうよ。真面目なやつはみんなつぶれている。なんたってダルクの活動は常に綱渡りだから。先は分からない。結果オーライの世界。こんな綱渡りの活動は難しいよね。ふつうならトラブルなんて嫌だし、面倒だから避けちゃう。警察にゆだねる方が手っ取り早いし、楽なわけだ。 (次号に続く)

受刑者のみなさんからの手紙～「潮騒通信」を読んで～**■服役中に潮騒 JTC を知り自分が依存症だと理解**

歳月の流れは早いもので、私が捕まってからもうすぐ5年になります。この5年間で何人かの知人が亡くなり、何人かの知人がクスリで捕まったと風の便りで聞きました。みんな私と同じく薬物と縁が切れず、もがいてきた人達です。このまま流されて行けば、哀れな末路が待っていると知りながら、抜け出せないでいるのです。私は今回の服役中に潮騒 JTC を知り、自分が依存症という病気だと知ることができました。腑に落ちたというか、目から鱗が取れたような気持ちで、なんで自分が今までクスリをやめられなかったのか、やっと分かったような気がしました。この病気を治さない限り、クスリとは縁が切れない。逆に言えば、この病気さえ治せばクスリとも刑務所とも縁が切れるということに気付いたのです。

簡単にはいかないと思いますが、何年か経って私が依存症から回復することができたら、私と同じように苦しんでいる大勢の人達に「こういう道がある」ということを知ってもらえるように、そういう活動に携わっていったら、残り少なくなった私の人生も多少は意義のあるものになるような気がします。(北海道 Y・T)

■許して頂けなくても被害者に一生謝罪し続けたい

自分は初めての刑務所務めです。今までの自分は薬物に対する考えが甘く、いつでも簡単にやめられると思っていました。でも、毎回薬をやるたびに最後の1回と心では思いながら、また手を出すことの繰り返しで、結局はやめられずにいました。そして最後は覚せい剤の使用による幻覚幻聴のせいで、何の罪もない人を刺してしまい、刑務所での生活となりました。刑務所での生活は薬が絶対に手が入らないので薬をやりたいとは思いません。しかし、出所後、外での生活は自由があり、また手を出してしまうのではないかとすごく不安です。

自分は2度と同じ過ちを繰り返したくありません。自分が起こした事件でたくさんの人達に迷惑を掛けてしまい、被害者の方やご家族の方達には本当につらい思いをさせてしまいました。被害者の方には出所後、弁護士の先生を通じて被害弁済をしていこうと思っています。絶対に許して頂けないとは思いますが、被害の方に一生謝罪し続けたいと思っています。自分の周りの人達や被害者の方のためにも自分は2度と薬に手を出したくあ

りません。外に出られたら普通に生活をしたいです。出所後は潮騒 JTC での回復プログラムを受けて、完全に薬物との縁を切って地元に戻り、一から人生をやり直したいです。どうか力を貸して下さい。(東京都 T・T)

■理不尽を強いた過去に謝罪できる人間になりたい

…(日々自己改善に努めているものの)現在の私はまだ自分を信ずるに値しませんが、それでも栗原施設長と御縁が出来始めた頃を想いますと、自分で言うのも何ですが、あの頃よりもずっと心が安らかな処にあると想うのです。塀の外に限らず服役中でも喧騒と醜聞の内に好んで身を置いてきた私が、静かな時間を、安寧な日々を心より求めるようになるとは一。虚勢と云うものが私にとって如何に不自由なものであったか、他人にどれほど理不尽を強いてきたか、安らぎを求めるほどに過去の不始末を想う私です。過去に戻る事はできませんが、理不尽を強い続けた生き方と過去に、いつの日にか心から謝罪できる人間になりたいと想います。

覚醒剤事犯が後を絶たぬ塀の中です。皆何処か壊れているようで、投薬時には行列の毎日です。今にして想えば、私の性分では覚醒剤を知ったその時点で、如何様にもならない人間になっており、またどうにもならない自分を認める勇気を持ち合わせていたら、巻き込まずに済んだ人達も居たことを想う次第です。実際に自分自身を薬で台無しにして何処が悪い等と、うそぶく時期さえあった私です。後悔先に立たずで、ひとりきりで生きている者などあろうはずもなく、道徳を逸脱すれば何処かで誰かに理不尽を強いる結果に成る訳ですから。

又そう考えますと、施設長の云う、回復に値しない人間などひとりもない、との御言葉の一端を理解しました。少しずつですが、自己を振り返り、又施設長の御便りから色々と想い抱く事も暫しです。私の生活から此の高塀が取り払われた後も、覚醒剤から身を守るために此処での残された時間を、自身を変える努力にあて頑張っていきます。何時かの御便りにありました御言葉に、私が覚醒剤を止める事で間接的な埋め合わせになる、との事。私は此の旨を頼りに私が覚醒剤に止める事を、私の過去への謝罪の一端にあてて行きたいと想います。新しい生き方で、出来得る事なら新しい自分になりたいと想う日々です。

(北海道 K・T)



6月のお題「キャンプ」

しおさい俳壇

～選者＝桐本 石見先生～

キャンプ場一夜を友と語るかな

(カート)

キャンプでは大勢で火を囲み歌などで楽しむものもあるが、知り合った人や友人と焚火から少し離れた暗がりや海辺などで人生や故里を夜の更けるまで語り合うのも楽しい。しみじみとした句。

キャンプ場バーベキュウの匂ひ立つ

(ヒロ)

キャンプでは何と云つても皆で作る料理ですが、バーベキュウは定番ながら一番手短で良い。河原などではあちこちそれぞれに準備したバーベキュウが香り立つ、如何にもキャンプの句です。

花火の火キャンプの火また星明り

(ヒーさん)

キャンプでは子供は無論大人も花火を楽しむが、海でも山でも少し暗がりに揚げる花火や焚く火、そして大方は寝た頃の静かな空の星もまた格別な趣がある。年を重ねて星明りにも思いを籠めた句。

キャンプ場声掛け合いてテント張る

(エゾ)

今ではバンガローや青年の家などがあるが、キャンプはやはりテントを張り煮炊きも外するのが実感も湧く。共同作業もキャンプの良いところで、テント張りは男の役目かも。実感の句です。

キャンプの灯消えてそれぞれ軒かな

(ユタカ)

キャンプの歌やゲームも終わり、夜更けて灯も消えると疲れて寝る。先に高軒(たかいびき)に寝られると後の人は困るが、それもキャンプの思い出かも知れない。楽しいことばかりではない、俳諧の面白い句です。

キャンプ地の森の小川に螢飛ぶ

(カート)

キャンプの楽しみは飲食だけでなく、釣、散歩、そしてこの詠の様に螢や蛙などを見ることでもある、子供達には特に楽しいし、大人もカップルなら螢の夜もロマンがある。艶治(えんや)を秘めた句です。

キャンプ場見知らぬ道に迷ひけり

(アンウ)

キャンプ場は山奥、河川の奥、海辺、などが多く普段はあまり人の来ない所でもある、その方が面白いが道に迷うことや危険もある。今はカーナビがあるが以前はよく迷いもした、実感の句。

朝靄に心しずもる梅雨の山

(ダイウウ)

原句には季語が無いので少し変えましたが、これで静かな山の朝の靄(もや)の中に散歩などをする作者の姿も見えます。山はまた寺のことであり靄の中で禅行なども心鎮まる。

キャンプ場山の空気も旨かりき

(チヨウ)

この鹿嶋などでは気づかないが、東京などから山へ行くと空気の美味しさに驚かされる、人類の文明科学は必ずしも幸せばかりではない、自然との強調が大事である。故里を思う句でもあります。

高原のよちよち歩き夏の夢

(イト)

原句には季語が無いので「夏の夢」にしてみました、夏の夢は儂い思いもあります、夏の高原の散歩の夢などは面白いかも。私も長野や山梨県の旅などでそんな思いをしたことがあります。

友達と心の弾むキャンプかな

(イト)

キャンプは会社などで何かの訓練で行うのと友人同士で行くのがありますが、気心の知れた者同士だと心も弾む、また家族で子供達のはしゃぐ声も賑やかで良い。野外は海も山も楽しい。

花火揚ぐ想い出させるあの人を

(ハナ)

花火にも土浦の大花火やキャンプをするもの、家庭で子供とするものや山や川の花火とありますが、昔に恋心を寄せた人との花火見物などは老い今も心に残る。それはまた束の間の花火の様に美しい。

眼鏡なく切り絵二重や夏灯し

(?)

原句に季語が無いので「夏灯し」としてみました。夏の夜に切り絵を見ているのか、子供に切り絵を作っているのか、眼鏡が無いので二重に見える、老いの哀れも籠めて実感の句です。

キャンプでの疲れも思ふ明日かな

(コジ)

キャンプに限らず休日に草野球や釣などをすると、その日は楽しいが次の日の朝は疲れを思う、仕事のし過ぎも普段のリズムから外れるのも疲れる、しかしキャンプなどで晴々と気分転換も良い。

しおさい俳壇・秀逸句コーナー

キャンプ場時の更けゆく笑ひ声

(コバ)

キャンプは海や山、河原などでテントを張り炊飯もして夜遅くまでキャンプファイヤーを囲み歌やゲームなどで楽しむことだが、野外の開放感もあり時を忘れて楽しむ。若者が多いが、今では家族年配の者も参加する。笑い声に夜の更けるを彷彿する句です。

山暮れて集うキャンプに炎立つ

(カツミ)

俳句ではキャンプは夏の季語なので、原句の「夏盛り」を変えましたが、これで、例えば筑波山の近くのキャンプであれば、山も暮れてキャンプファイヤーの炎が燃え立ち、それに集う景が見える句になります。「筑波暮れ集うキャンプに炎立つ」でも良いです。

宮の森幼き頃のキャンプかな

(オノ)

宮の森と云う地名は長野や北海道などにもあるが、この宮の森は長崎県五島市のキャンプ場のことも、私も長崎は三度訪ねて懐かしいが五島は訪ねていない、作者は父母を偲ぶ句かも。

ガンダーラ夢まぼろしにキャンプの夜

(ポチ)

ガンダーラはパキスタン北西部の地名で、紀元前後に仏教芸術の栄えた所、作者は以前そこへ旅でもされたのかも。キャンプの夜も更けて寝床でふと夢の様に思い出して、もう一度そこへ旅したいものだ。メルヘンを誘う一句です。

聞きとめる初時鳥キャンプ場

(アベ)

初夏の頃に山間や川辺にキャンプをすると、時鳥(ほととぎす)や鶯などの声を聞けるし、青葉若葉の美しさも見える。歌にもある様に、時鳥は夏を告げる鳥でもある。山間の初夏を彷彿する句で清々しい。

受刑者の作品



キャンプファイヤー時に希望の光かな

(長吉)

火は人類が得た文明の一つで、生活の煮炊きから工業にまで利用するが、太陽と共に神秘の神聖なものでもあり、時には希望の光でもあり、冷めた心や身体を温めてくれる。これも俳諧の温みの句。

野営にて飯盒飯の旨さかな

(勝ちちゃん)

野営と云えば軍隊を想像するが、今では会社の野外訓練などもあり、私も会社の頃は二度ばかり経験した。行軍で腹も減っていたが、飯盒の飯もトン汁も旨かった。実感の懐かしい句です。



夏草に雨の通りし匂ひかな

(北海道・章三郎)

梅雨の雨で育った草木は七月頃は緑も濃く、芒原や堤防の雑草などは「草いきれ」とも云い、むせ返る様な匂いと熱気がある。そこえ夕立など降ると湯気も埃も立つが草の青さも匂いもまた清々しい。この度世界遺産となった富士の裾野をも彷彿する句。

失望はさりげなく来る走馬灯

(北海道・章三郎)

昔走馬灯は回り灯籠とも云い蠟燭の火で回転する提燈、薄紙に映る絵などが回り夏の夜を楽しみ、色々の想像や人生なども顧るが、所詮は同じ絵で現実に還ると飽きもする。期待した事がやがて失望に変わるのにも似ている。俳諧の哀れを籠めた一句です。



Information



行事予定 (7月中旬~8月中旬)

- 7月19日 潮騒プロジェクト会議
- 20日 潮騒ファイザープロジェクト・第3回青空野菜市
- 21日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
茨城ダルク 21周年フォーラム
- 25日 潮騒ファイザープロジェクト・パソコン教室発表会
潮騒7月定例俳句会
- 28日 潮騒7月定例家族会
- 29日 潮騒入寮者7月誕生日会
- 8月4日 第17回仙台ダルクフォーラム
- 7日 平成25年度薬物依存症フォーラム (栃木県宇都宮市)
- 11日 秋元病院メッセージ,
リカバリーパレード打ち合わせ (東京・新宿)



編集・発行
特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター (本部)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム (中施設)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス銚田
〒311-2113 茨城県銚田市上播木 1113-39

E-MAIL k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

献金・献品を頂いた方々 (7月15日現在)

- | | |
|---------------------|------------|
| ▼ 献金を戴いた方 | ▼ 献品を戴いた方 |
| 近藤 直樹 様
(聖明病院院長) | 堀内 誠 様 |
| 上田 隆靖 様 | タイヘイ(株)遠藤様 |
| 長谷川トキコ様 | 山下寝具 様 |
| 坂口 政治 様 | 山本せつ子 様 |
| | 村山 和彦 様 |

☆そのほか匿名の皆様からも献金・献品をいただきました。ありがとうございました。

編集後記……今夏は記録的な早さで猛暑に突入り、体の調子も狂いがちですが、潮騒ファイザープロジェクトの農作業は夏野菜の収穫や秋野菜の種まき時期を迎え、農業隊メンバーは連日、大忙しです。収穫した野菜の青空販売にも初挑戦しており、耕作面積を拡大したコマづくりも昨年同様に豊作が見込めそうです。メーンの青パイヤがどうなるかは予断を許しませんが、もし失敗したとしても、それは潮騒 JTC のいい経験となります。失敗は成功のもと、物事はプラス志向でいこう。(市)

発行所 郵便番号一五七〇〇七三
東京都世田谷区砧六―二六―二一
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
(会費を含む) 定価一〇〇円

今月のベストアングル



夏季キャンプの会場でまどろむ入寮者たち。2時間近く車に揺られ、お弁当を食べた直後だけに皆さんお疲れの様子

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。